

美術部へようこそ! ●新潟県新潟市立東新潟中学校

新潟県新潟市で毎年開催される「沼垂まつり」。
このお祭りで使う、大きな灯籠をつくる美術部取材しました。

伝統の「献額灯籠」

「わっしょい! わっしょい!」。夕間に威勢のいいかけ声が響く。ここは新潟県新潟市の沼垂地区。毎年8月16日に沼垂白山神社を拠点とした「沼垂まつり」を開催している。その目玉となっているのが、巨大な灯籠を神輿のようにつなぎ、灯籠どうしをぶつけ合う「献額灯籠」だ。

この日のために、沼垂地区の各町内会は、縦が約2m、横が約2.7mの長方形の大きな灯籠をつくる。鬼や風神雷神など、さまざまな迫力ある絵柄が描かれているのが特徴だ。

そして夜になると、法被を着た男性たちがその灯籠をつなぎ、ぶつけ合ってそのすごさを競い合う。笛や太鼓が鳴り響く中、灯籠がぶつかり合う鈍い音、男性らのかけ声、周りの歓声がどんどん大きくなり、祭りは最高潮を迎える。

夏休みは灯籠づくり

「うちの美術部が、この灯籠づくりに参加するようになって、今年で4年目になります」と話すのは、東新潟中学校の荒川洋子先生。同校の美術部員は、毎年夏休みに、灯籠づくりを行う。描くモチーフは「龍」と決まっているそうだ。なぜなら制作するのは、「西龍ヶ島」町内会の灯籠だから。

図案は部員全員で考える。「ぶつ

けて競い合う灯籠だから、『強く』見えるような図案にと、生徒たちには伝えていきます」と荒川先生。今年、黄色い身体に、赤い眼と白いたてがみをもつ、迫力ある龍を描くことに決まった。

町内会から提供された布に下絵を描き、手分けしながら灯籠を仕上げていく。「むらなく塗るのって難しい」「手が届かない!」などと言いながら、真夏の美術室で汗をぬぐいつつ、大きなキャンヴァスと格闘している。その目は真剣そのものだ。

西龍ヶ島町内会の山崎正人さんはこう語る。「4年前、学校のほうから、『子どもたちに祭りの手伝いをさせてほしい』と申し出があり、喜んでお引き受けしました。中学校には沼垂地区以外から通う生徒も大勢います。美術部が祭りに参加してくれるようになってから、他の地区から見に来るお客さんも増え、うれしい限り。ずっと続けていってほしい」。

灯籠の左右の側面には「西龍ヶ島」と「力の東新」という文字が筆で力強く書かれている。「力の東新」は、同校のスローガン。祭りに訪れた卒業生は、灯籠に書かれたこの文字を見ると歓声を上げるそうだ。

「お祭りで自分たちの灯籠を見ると誇らしい気持ちになる」と部長のTさんは話す。今年も龍の灯籠は、祭りの熱気の中で、ひとときわ輝いて見えたことだろう。



上/部員は総勢23名。毎年夏休みの前半は、灯籠づくりに励む。
左/アクリル絵の具で描く。光を通しやすいよう、絵の具はなるべく薄めて使うそうだ。
右/「沼垂まつり」当日の様子。美術部がつくった灯籠に灯がともされ、迫力が増す。

教室を飛びだして

ジュニア映画制作ワークショップ

神奈川県川崎市は、「映像のまち」として知られ、毎年市民による映画祭が開催されています。その活動の一貫で行われている、中学生を対象としたワークショップの現場へ伺いました。



スタート!」と、カチンコが鳴り、カメラが回る。張りつめた緊張感が漂う、映画撮影の現場。ここにいる監督や俳優らは、すべて中学生だから驚きだ。

NPO法人 KAWASAKI アーツが主催する「ジュニア映画制作ワークショップ」は、中学生を対象とした映画づくりのワークショップである。毎年6月に参加者を募り、7月に脚本づくり、8月に撮影と編集作業を行う。そして最終的に、11月に市内で開催される「KAWASAKI しんゆり映画祭」で上映する。

このワークショップは2000年から始まり、長い歴史をもつ。今年には18名の中学生が参加し、講師の指導を受けながら、短編映画をつくる。

「講師が技術的な面をサポートし、ボランティアスタッフが安全面を見ますが、手を出しすぎないようにしています。子どもたちの自主性を大事にしたい」と話すのは、KAWASAKI アーツ事

務局の柳町恵太さん。その言葉どおり、生徒たちは現場できびきびと動き、心の底から映画制作を楽しんでいるようだ。

2年連続で参加するTさんは「実際に映画をつくってみて、映画の見方がガラッと変わりました。映画づくりって、すごくおもしろい。もう映画なしでは生きていけないです(笑)」と熱っぽく語る。昨年の上映会は、満席に近い状態になったそうだ。「今年は立ち見も出したいな」と、監督を務めるIさんは笑う。11月6日に行われる上映会が、今から楽しみだ。

ジュニア映画制作ワークショップ (NPO法人 KAWASAKIアーツ)
<http://www.siff.jp/jw2016/>



台本をみんなで確認。監督、撮影、録音、小道具など、役割分担を決め、映画制作に当たる。

放課後

第10回

ART